

かきすけ

2022
NO. 111

Contents

特集 「技能実習生受入監理団体を訪問して」	2-3
研修会報告	4-5
会員紹介	6-7
事務局からのお知らせ	8



明石公園



うず潮

特集

「技能実習生

受入監理団体を訪問して」

今回、技能実習生（以下、実習生）の受入支援及び監理を行う3つの組合に、略歴と特色をインタビューした。また、それぞれ組合に携わる方々からのお言葉をいただき、他にも実習生受入施設（以下、受入施設）での課題や実際に起きたアクシデントを教えてくださいました。福祉の現場で活躍する実習生や受入施設の生の声を皆様にお届けすることが、これからの福祉の在り方を考える一助になれば幸いです。

くすのき介護協同組合

2018年6月設立 主な受入国(インドネシア)
理事長 笹山博司氏
現在9事業所35名 待機者51名

当組合からは各受入施設へ日本語の教員を派遣し、毎週語学サポートを行っている。

受入法人ささゆり会笹山周作理事長の「実習生が学び、その後、特定技能ビザへ変更し、介護福祉士の国家資格を取って都市部へ移っても良い。一人でも多くの実習生の夢を叶えたい。」という思いを基に、自ら作成した介護テキストを利用し、2年計画で1年目は毎週金曜日の午前9時から12時まで、2年目は毎週土曜日の午前8時〜12時まで日本人職



笹山 周作氏 笹山 博司氏 原 博司氏 郷田 真佐美氏



員1名のサポートの下、介護福祉士受験の勉強時間を設けている。毎週土曜日の授業については、理事長が（休日返上！で）介護福祉士受験の授業を行っている。この取り組みは2018年の3月からスタートし、25問のテストを毎週土曜日に実施するなどして、徹底した介護福祉士受験教育を行っている。実習生の満面の笑みと、「すごく大変ですが、充実しています！」という言葉が印象的だった。また、当該法人ではイスラム教徒の為の「お祈りスペース」を設置するなど、実習生の文化・生活面における環境整備も非常に重視



している。アクシデントといえば、実習生1名が緊急入院したが、施設と組合が連携して対応し、現在は元気に現場復帰している。
<http://kusunoki-kaigo.or.jp>

ひょうご外国人

介護実習支援センター

2019年2月設立 主な受入国(ベトナム)
所長 齊藤和満氏
現在10事業所24名 待機者12名

県の福祉人材研修センターを利用して、多くの施設への啓蒙活動を行ってきた監理団体。ベトナム語のネイティブ通訳を常勤に置き、各施設から要望があれば、日本語教育機関を紹介するなど、きめ細やかなサポートを提供している。また、携帯アプリを介し、実習生個々に自学を促すとともに、日々の生活サポートもリモートで行っている。



ひょうご外国人
介護実習支援センター

当該センターでは、県の委託事業として「職員・外国人材への啓発セミナー」や「EPAから介護福祉士の資格を取得し、現在、福祉施設の副施設長をしているフィリピン人介護士の講演」を計画している。



所長 齊藤 和満氏

インターナショナル

ワークゲート

2018年2月設立 主な受入国(フィリピン)
現在7事業所32名 待機者50名
監理責任者 上田雅博氏



監理責任者 上田 雅博氏

常勤の日本語教師を配置し、入国を待つ実習生への定期的な語学研修を継続。入国後も語学を中心に研修を行い、介護技術に関しては、各施設の方針に合わせるよう指導。広範囲の受入希望施設に迅速に対応できるように、関東・中部・関西に連携機関を配置している。

上田氏は、「ただ単に『働いてくれる人材を受け入れている』と考えないでほしい。それぞれ大きな決心と想いをもって入国する個々の人生を受け入れる気持ちが大切である。」と語った。



インターナショナル
ワークゲート

また、当該監理団体は主な受入先がフィリピンであることに大きなメリットを感じているという。フィリピン人は全員英会話ができるからである。私生活の面でも、何か起きた時に最低限のコミュニケーションが取れることは大きなアドバンテージである。また、技能実習を継続するにあたっての必要な手続きなど、複雑な日本語が使われる場面でも利点であったという。



で緊急帰国を決定。直ちにシフトの調整やフライトチケットの手配、送迎などを迅速に行った。日本への再入国後も、新型コロナウイルスによる隔離期間の宿泊手続きと経済的援助を行った。現在は、娘も退院し本人も現場復帰している。

取材レポート

今回訪問した施設では、実習生に数かずつ面会させていただいた。その際、一般的な日常会話で困ることは全く無かったが、専門用語の多い介護業務の中ではどうかと心配した。しかしながらその心配は全くの杞憂であり、本人たちから「現場での会話の方が、表現に一貫性がある為、スムーズにやり取りができる」と教えてもらった。また、利用者の方々からの評判は非常に良く、日本人には見慣れないインドネシアの民族キャップ(ヒジャブ)に関しても、全く問題は発生していないという。

然と抱かせる。目的が明確であるからこそ、目の前の大変な作業に全力で取り組んでくれるのである。

そして、彼らが必死に日本の文化を学び、日本の社会に慣れようと努力してくれているのと引き換えに、受け入れる施設側もそれぞれの国の文化や彼らのバックグラウンドを学ぶ必要があるという点も大切な視点ではないだろうか。福祉施設を運営していく法人にとって重要な人材確保という課題の解決の糸口となる技能実習制度について、今後も情報発信していくのが我々の使命であると強く感じた。

多国籍、言葉、文化、宗教における多種多様で一見大きなギャップは、彼らの笑顔と姿勢で打ち消されるのであろう。どこの受入施設でも、本当に笑顔の絶えない実習生から、我々の方が力をいただいたように思う。彼らの多くは遠い故郷に家族を残し、それぞれの目的の為に精一杯努力している。忌憚なく「お金が必要!でも楽しいし、もっとここに居たい!」と語ってくれた彼らの真摯な姿勢は、深い感謝と敬意の念を自

三組合三様の考え方や方針があり、非常に多くのことを勉強させていただいた。今回、このインタビューを通して気付いたことは、かつて日本にあった「安い労働力を海外から受け入れる」という考え方が完全に払拭されているということである。受入施設側の「技術を習得させる責任感」だけでなく、「現場で活躍していただいている実習生への感謝」も実感することができたことは、大きな発見である。また、長期的な視野にはなるが、実習生らが永続的な在留資格を取得できるようになれば、将来、介護現場で働く日本人に負けない戦力になり得るという期待も大きい。

最後に、今後も技能実習制度を通して、人と人との温かい繋がりを見られることを楽しみにしている。

令和3年度介護の日イベント

日時・11月26日開催
開催場所・神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4F 瑞天

今回の講演1部では、『できることを応援する介護へ』と題して、講師・ケアプロデュースRX組 代表 青山幸広氏の体験によるものである。

青山氏は青森県に生まれ、保育士を経て介護職となり、ご自分の親を介護された体験を通しての気づき、介護現場で編み出した元気を引き出す「楽ワザ介護術」の指導普及やセミナーを開催し、意識改革、業務改革についてアドバイスをされている。

介護の介は媒介(きっかけ)の意味：あきらめたらその人の人生も終わる。元気になる(ココロ・カラダ)にはどうしたら良いか？問題点だけを探り対応することよりも、できる事やしたい事に取り組むことにより問題ではなくなる。

解決志向の視点から挑戦してみようと話される。

体験談の中には、次のような項目があった。
(1)介護の三原則①寝たきりにしないさせない(自然な動きを大切に)した環境作りや介護技術・関係性②主体性個性を引き出す(姿勢・空間・タイミング・相性)③生活習慣を守る(自分の時間・家族や友人との時



青山 幸広氏

編集委員 岡崎みほこ

間・社会の地域活動の時間)②環境のポイント①浴室②トイレ③キッチン③問題志向から解決志向へアプローチについて、その方の本当にしたいこと。行動に見える思いを知ること。理論ではなく経験値を大切にしたい。一斉一律の支援でなく介護する側、される側が楽しくないと継続できない。出来ないことと決めつけず、何かできないかと考え行動するチーム力を上げるためにも必要な環境を整え、お年寄りが主役になる施設づくり、地域づくりに全力を注がれている。

最後に、青山氏より自分が入りたい施設作り、介護はその方の良い所を見る。看護はその方の悪い所を見る。心も動けば体も動く。介護には正解はない。解決志向型の考えが必要であると締めくくられた。

エンディングノートは、人に見せるもの、共有するもので、自分でできなくなつた時、自分のことを知ってもらおうヒントになるもので誰に伝えたいかイメージしながら書くことよ。『何がしたい』『どこに行きたい』『会いたい人は?』などワクワクすることを考えながら自由に書いてよい、1回書いたら終わりではなく更新していく(更新日記入)ことが大事と話された。



竹裏 由佳氏

令和3年度 人生の最終段階に向けての県民フォーラム

日時・11月26日開催
開催場所・神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4F 瑞天

『エンディングノートと人生会議』と題して、整理収納アドバイザー 竹裏由佳氏による講演がありました。

「終活」、「エンディングノート」という言葉は、お年寄りがすること、暗いイメージをもたれがちであるが、竹裏氏は「死は誰にでも訪れ、いつ来るかわからないので、いつ始めてもいいもの。終活を人生の最期への準備と捉えないで、未来を考えながら、今を楽しく自分らしく生きるためのもの。」だと話された。

エンディングノートを書くためには、家の片づけをしながら、自分のことを知るために3つの「間」(時間・空間・人間関係)を整えるセルフケアが必要であると話された。

自分の基本情報 正しい漢字(読みかな)、愛称、生年月日(和暦、西暦とも)、住所(郵便番号も) 本籍地など ②もしも時の連絡先(3人)③自分の体のこと④食事のこと(好き嫌いなど)⑤好きなこと⑥判断能力が低下してきたら?⑦もしものとき⑧葬儀・お墓のこと⑨財産のこと⑩大切なものなど。

エンディングノートを書くことで、今までどこで、だれとどう過ごしてきたかを思い出しながら整理し、これからどう過ごしたいか、どうなりたいかなど自分自身を知ることで、家族や介護する者は、最期までその人らしく生きるお手伝い出来るのではないかと感じた。

令和3年度

施設長研修会

令和4年1月26日(水)・27日(木)開催
場所/神戸メリケンパークオリエンタルホテル

令和3年度施設長研修会が令和4年1月26日(水)・27日(木)の2日間、ハイブリット形式で開催された。

研修1日目、当会伊富貴会長による県老協の事業進捗状況及び国や県への陳情についての基調報告の後、最初の講演は、ダイヤモンド・コンサルティングオフィス合同会社代表 山藤祐子氏より、「パワーハラが起きている組織の本当に怖いこと」と題して行われた。



山藤 祐子氏

パワーハラズメントは同じ職場で働く者に対して、業務の適正な範囲を超え精神的・身体的苦痛を与える行為である。ハラズメントが起こる職場の特徴は、職場の風通しが悪く、様々な面でのバランスの悪さ、権力や立場が他者に与える圧力の認識不足などが要因である。一方で、誰もが行為者になる可能性があるという認識を持つこと、これらを防止するには、まず職場風土を属人化せず現状を把握することやマニュアルを作成し、意識啓発を行う。相談窓口の設置や意見交換ができる職場環境の醸成と、継続的な社員教育の実施が効果的である。ハラズメント行為者にならないためにはアンガーマネジメントを活用、常に情報や知識のアップデートを繰り返し、情報は職場

続いて、『介護報酬改定と介護経営 よもやま話』と題し、小濱道博氏による講演では、昨春の報酬改定の現状と課題、処遇改善補助金、BCPについて説明があった。

介護職員処遇改善支援補助金についての詳細な通知は、研修日においても未だ公表されておらず現場の混乱が予想される。6月より補助金が交付され、10月以降は加算に移行、利用者負担が増える分、それに見合うだけの介護の質の向上が求められる。LIFEを介した科学的介護に資するデータの全国平均値が近々提示される予定。平均値と比べ自施設の評価を他職種で共有、分析し、フィードバックできるかどうかを差別化戦略となる。令和6年は大規模改

正が見込まれ、とれる加算は全てとることが必須で介護の質を高めることに繋がる。人材不足対策には、いかに働きたいと思う職場になれるかが重要と話された。



小濱 道博氏

研修2日目は、兵庫県健康福祉部 法人指導室長 北茂正氏と兵庫県参事(ビジョン担当) 坂本哲也氏にそれぞれの立場から兵庫県の動向について講演して頂いた。

まず、北室長からは具体的なデータ事例で、井戸知事から斎藤知事への交代により新たな県政が始まった現在の兵庫県について説明があり、監査の実施状況について令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響から実施率が前年比3分の1となった現状や実施した監査における具体的な指摘事項の解説、また県所管社会福祉法人の経営適正化への経営分析と経営不振の法人に対する指導や助言の体制、さらに介護施設等における災害時情報共有システムの構築と運用について報告があった。



北 茂正氏

引続き坂本参事より冒頭、現在の県内新型コロナウイルス感染症拡大の中で、感染者の病床使用率上昇に伴う一般医療の逼迫をもたらしかねない現状を踏まえ、対策推進に関する説明の後、「躍動する兵庫の未来を考える」と題し、次世代を担う若者や子供たちが地元で安心して定着出来る経済・福祉社会の構築、そして他府県や官民の連携と対話を重視したオープンな県政ビジョンについて講演して頂いた。

2日間の研修を通じて、報酬改定から事業所運営に課せられる課題を再認識し、行政との情報の共有と連携、協力を図りながら地域福祉の向上に努めて行くことの重要性を改めて感じた。



坂本 哲也氏

編集委員 森理恵、浅井愛子、古市明彦

会員紹介

特別養護老人ホーム けま喜楽苑

介護老人福祉施設 / 阪神ブロック



社会福祉法人 きらくえん 特別養護老人ホーム けま喜楽苑

施設長名 堀口 明子 定員数 入所55名

住所 〒661-0982 兵庫県尼崎市食満2丁目22番1号
TEL 06-6493-8300 FAX 06-6493-8320
ak-horiguchi@kirakuen.or.jp

併設事業 短期入所生活介護・通所介護・グループホーム・居宅介護支援・ホームヘルプサービス・地域包括支援センター・配食サービス

「けま喜楽苑」は、法人が運営する4つ目の施設として、2001年に開設されました。既存3施設における人権尊重の理念と実践を引継ぎ、入居者1人ひとりの個性と居住性を考慮したソフト（ケア）とハード（環境）の構築に取り組みため、制度に先駆けて全個室化・ユニット化を実現しました。

施設は「介護を行う場」ではなく、「暮らしの場」（ケア付きの住宅）です。お引越（入居）から終末期に至るまで、入居者に生活の主体者として、その人らしさや役割を發揮しながら自由に暮らしをいたすことを、援助の方針にしています。また、年間を通じて施設主催の季節行事や学習会の開催、地域の祭りへの参加、保育所や学校との交流事業を行っています。



2021年春には、開設20周年を迎えました。これからも地域のさまざまなニーズに目を向けて、法人理念「ノーマライゼーション」を実践していきます。

通所介護事業所 ぶる〜むデイサービス

デイサービス / 阪神ブロック



社会福祉法人 ヘルプ協会 通所介護事業所 ぶる〜むデイサービス

施設長名 山根 由紀子 定員数 定員18名

住所 〒664-0887 兵庫県伊丹市南野北1丁目3番44号
南野ローズヴィラ102号
TEL 072-779-9300 FAX 072-779-9330
bloom.ds@helkyo.or.jp

・総合的な方針
利用者主体の尊厳と人権を守り様々なニーズに応えるため、馴染みの関係づくりや個別援助の視点・環境整備などをおこないサービスの質の向上を図っています。

・ぶるむデイサービスで心地よく過ごして頂く為に：
誰もが特別な一人であるオンラインワン・オンリーユーあなただけ。あなただけ、私だけの個性を大切にしていきます。

一人暮らしで食事が心配：朝はゆっくり寝ていたい：誰かと一緒に話したい：
お風呂に安心して入りたい：ひとりひとりの希望や体調、ペースに沿った援助を行います。

季節の行事・個別のアクティビティを実施し、ひとりひとりの



・総合的な方針
入浴はひとりずつゆっくりとご利用いただけます。リフト浴も設置しておりますので、足元が不安定な方も安心してゆったりご利用いただけます。

ひとりひとりのもてる力と役割、その人らしさが発揮出来る援助を行います。

デイサービスセンター口吉川は、平成7年に開設し、今年で28年目を迎えます。場所は、三木市の北東部に位置し、山や田んぼなど自然豊かな緑に囲まれた地域にあります。社協が運営するデイサービスとして「住民主体と住民自治による地域福祉の推進」を基本理念に利用者がいつまでも自宅で生活できるよう、地域と連携しながら自立支援に向けたサービス提供に取り組んでいます。なかでも力を入れているのが緑豊かな土地柄を生かした畑づくりです。センターで収穫したさつま芋と近所の方から頂いたおみそで行う焼き芋大会は、毎年大変好評で利用者の皆さまも思い出話に花を咲かせながら楽しいひと時を過ごされています。他にも歯科衛生士による口腔ケア巡回や提携病院からの理



学療法士派遣など、心身機能の向上を目的としたプログラムを数多く取り入れています。これからも利用者一人ひとりの尊厳を第一に、誰もが笑って過ごせる施設づくりを目指してまいります。

デイサービスセンター 口吉川

通所介護 / 東播磨ブロック



社会福祉法人 三木市社会福祉協議会 デイサービスセンター 口吉川

施設長名 豊崎 ゆかり 定員数 定員35名

住所 〒673-0741 三木市口吉川町殿畑144番地
TEL 0794-68-9009 FAX 0794-88-2822
kuchiyokawa-day@miki.or.jp

併設事業 居宅介護支援

特別養護老人ホーム 志深の苑

介護老人福祉施設 / 姫路ブロック



社会福祉法人 三光志福社会 特別養護老人ホーム 志深の苑

施設長名 小西 功一 定員数 入所70名

住所 〒671-0231 姫路市御国野町深志野1430番地
TEL 079-253-7817 FAX 079-253-7810
info@sankoushi.or.jp

併設事業 地域密着型特別養護老人ホーム・短期入所生活介護・通所介護・グループホーム・ケアハウス・居宅介護支援

自然豊かで広大な敷地の中に、特別養護老人ホーム（従来型・ユニット型）、シヨートステイ、デイサービス、グループホーム、ケアハウスを併設、加えて地域密着型特別養護老人ホーム（29床）、シヨートステイ（10床）、居宅介護支援事業を新たに増設し、姫路市東部において20年以上にわたり育ててきた「地域からの信頼」「お客様の笑顔」「誇れる人財」の更なる向上を目指しています。



お客様にとって必要で望まれるサービスを、より安心して選択し利用できるよう、すべてのサービスは同じ敷地の中で展開しており、また積極的な個別外出やケアの実施、看取りへの取り組みなど、お客様が慣れ親しんだ場所です、いつまでも長く、心地よく過ごして

ただただ環境を整えています。そして環境やサービスの質だけでなく、お客様が介護を必要とする中で、まず人として当たり前に願う一人ひとりの『思い』に寄り添い、応えられるスタッフの育成、施設運営に努めています。

◆阪神ブロック

○12月8日 デイ部会研修会(オンライン開催)
 テーマ別意見交換会「コロナ禍の中でのレクリエーション・家族、事業所
 連携・稼働率確保 他」

○12月10日 第3回 意見交換会・施設長会(オンライン開催)
 テーマ別意見交換会「制度改定等に伴う運営状況、人材確保(採用)・
 人材育成、感染症関係について」

○3月10日 第4回 研修会・施設長会(オンライン開催)
 テーマ：「介護施設内での転倒に関するステートメント」
 講師：大河内 次郎 氏
 社会医療法人若弘会 介護老人保健施設 電間之郷 施設長
 公益財団法人全国老人保健施設協会 常務理事 学術委員長 等

◆東播磨ブロック

○1月18日「VR認知症体験会」
 コロナ感染拡大のため中止とし、来年度以降開催予定。

◆姫路ブロック

○1月24日「LIFE及び栄養ケアマネジメントについて」(オンライン開催)
 講師：兵庫県栄養士会 理事 社会福祉法人きらくえん 高齢者福祉施設
 けま喜楽苑 管理栄養士 檜垣 友美 氏

○2月15日「姫路の看取りについて」(オンライン開催)
 講師：姫路市医療介護連携会議 看取り部会担当医師 辰巳内科医院
 辰巳 和宏 氏

◆但馬ブロック

○3月23日 栄養士・調理業務職員研修(オンライン開催)
 第一部「新型コロナウイルス感染症
 県内における発生状況と感染対策」

講師：朝来健康福祉事務所 渡部 雅博氏
 第二部「厨房内の衛生管理」
 講師：ナリコマエンタープライズ 鈴木 翔子氏、西崎 友子氏

◆丹波ブロック

○2月18日 全体研修会(オンライン開催)
 「高齢者虐待防止・身体拘束防止研修～支え合うコミュニケーション、
 お互いを大切にするコミュニケーション～」

○3月7日 ケアプラン研修会(オンライン開催)
 「ケアマネジメント情報交換会」

◆淡路ブロック

○12月16日 看護師・介護職員研修会(オンライン開催)
 「ハラスメント防止研修(現場にいる大切な介護スタッフと利用者様を
 守るために今知るべき大切なこと)」

講師：特定社会保険労務士 さくら労務管理事務所 北井 一行氏

部会・委員会通信

◎ 介護保険推進委員会

介護報酬改定の影響調査を実施・分析したものをホームページに掲載して
 おります。又本調査に基づき厚生労働省、国会議員との意見交換を行
 いました。(詳細は、かけはし111号号外等に掲載)

◎ 介護人材確保推進委員会

当協会では、介護現場で働く職員が圏域内の中学校等を訪問し、介護の
 仕事の魅力を伝える「出前授業」を随時実施しています。将来の介護の
 担い手となる小学生・中学生・高校生・大学生やその保護者・教員向け
 て介護の仕事の魅力を発信しています。さらに今年度は、イメーリアップ
 PR事業の一環で、マイナビの配信力を活用し、「学生の窓口」に記事を
 掲載し、Twitterでも発信しました。本会HPからリーフレット、動画を閲
 覧しやすくなりましたので是非ご活用ください。令和4年度も就職出前
 プレゼンテーションを実施します。

◎ 調査研究委員会

モデル施設を10施設選出してBCPの作成を行っており、会員事業所に発
 表できるよう準備しています。

◎ 編集委員会

令和4年度かけはし発行に向け、取り上げて欲しい事柄や、会員事業所
 の取組み等の情報をお寄せ下さい。

◎ ケアプラン委員会

令和3年度に実施した、「ケアプラン作成について」の会員施設実態調査
 の報告書を現在とりまとめています。
 後日、まとめた結果を皆様にご報告させていただきます。

◎ 研修委員会

令和4年1月26日(水)～27(木)ハイブリッド形式による施設長研修会を
 開催しました。

令和4年3月末に認知症介護基礎研修を開催予定です。
 令和4年度も現場の声に応える研修会を企画してまいりますので、多く
 のご参加をお待ちしております。

◎ 養護部会

令和4年2月10日に施設長研修会を開催しました。
 令和4年度にむけて多様化するニーズに対応した研修会を企画しており
 ますので、積極的なご参加をお待ちしております。

◎ 軽費・ケアハウス部会

令和4年1月18日(火)施設長研修会を開催しました。
 令和4年度も軽費・ケアハウスの現状と課題に目を向け、研修会の企画や
 調査に繋げていきたいと思っておりますのでご協力をお願いします。

◎ デイ部会

令和4年3月2日に、「ICT化推進に向けての現場職員の動機付け」と題し、
 管理者研修会を開催する予定です。

◎ 地域サポート施設推進事業

本会会員から68施設が認定を受けています。1月20日に「令和4年度認
 定施設募集要項説明会」と認定施設による「事例発表会」を開催しまし
 ました。各施設とも、「見守り」「安否確認」を基本としつつ、「防災支援」「自
 治会活動」等、活動の幅がますます広がっています。

◆ 青年部会 会員募集中 ◆

【入会条件】

正会員 50歳以下の施設長もしくは施設長の
 推薦する50歳以下の施設職員
 年会費：5,000円

賛助会員 会の趣旨に賛同し、ご支援いただける方
 年会費：10,000円

【目的】

老人福祉の増進と老人福祉事業推進のために、
 老人福祉事業後継者としての研鑽と会員相互の
 親睦をはかることを目的とする。

入会お待ちしております！
 入会についてのお問い合わせ、並びに申込書送付は
 下記、青年部会事務局まで。

【青年部会事務局】特別養護老人ホームたちばな苑 山岡 TEL (0799) 27-0146

県老協加入施設数

R4.3.1現在

	特養	養護	軽費	ケアハウス	デイサービス	計
会 員						
阪 神	66	6	0	21	71	164
東播磨	63	6	1	20	72	162
姫 路	42	3	0	8	39	92
西播磨	28	5	0	2	36	71
但 馬	25	3	0	6	40	74
丹 波	11	4	0	3	13	31
淡 路	21	4	0	2	16	43
計	256	31	1	62	287	637

※ 賛助会員 1事業所(内訳:団体)

編集後記

会員事業所の皆さまにおかれましては、今年度も本会事業推進について、ご理解、ご協力を賜りありがとうございました。新型コロナウイルス(オミクロン株)の爆発的な感染拡大により、事業所運営にご苦労が絶えない中、本会独自の介護職員応援スキームにより、ご登録いただいた方とマッチングし運用いたしました。ウィズコロナの生活はまだまだつづきそうですが、来年度も引き続き、会員事業所の皆様とともに事務局も一丸となって、迅速な情報収集や情報提供により、感染防止対策や非常事態に対応できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。